

## 2004 年度 委員会活動成果報告

( 2005 年 2 月 18 日作成 )

委員会名	クールルーフ評価 WG	主 査 名：足永靖信
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (都市環境・都市設備小委員会)	委員長名：鉾井修一
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	近年、地方自治体の条例などで都市ヒートアイランド対策として屋上緑化の義務付けが行われ、各種の屋根緑化手法が開発されてきている。また、同様な熱的効果の期待できる屋根仕上げとして高反射性塗料やメンブレン、保水性タイルなどの屋根材も開発されてきている。 そのような社会的背景の中で本 WG は、建物及び都市への熱環境の効果を持つと考えられる建物屋根（必要に応じて外壁などを含む）の環境性能を確認し、その性能評価をまとめようとするものである。	
委員構成 (委員名(所属))	足永靖信(建築研究所)、近藤靖史(武蔵工業大学)、芝池英樹(京都工芸繊維大学)、下田吉之(大阪大学)、竹林英樹(神戸大学)、並木裕(大成建設)、成田健一(日本工業大学)、長澤康弘(武蔵工業大学)、鳴海大典(大阪大学)、西岡真稔(大阪市立大学)、梅干野晁(東京工業大学)、松尾陽(明治大学)、三坂育正(竹中工務店)、持田灯(東北大学)、森山正和(神戸大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	該当なし	
2004 年度予算	90,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回：2004 年 10 月 26 日 (火)・13 人 第 2 回：2004 年 12 月 13 日 (水)・10 人 第 3 回：2005 年 2 月 23 日 (水)・13 人
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 高反射率塗料製品の日射反射性能に関する研究について近藤委員より報告され検討を行った。高反射塗料の JIS 制定について三木氏より報告され検討を行った。高反射性舗装、保水性舗装の実験結果について西岡委員より報告され検討を行った。国土交通省路面温度低減技術フィールド実験結果について三木氏より報告され検討を行った。保水性舗装の実験結果について成田委員より報告され検討を行った。高反射塗料の JIS 制定に向けた検討について塗料検査協会の前川氏、清水氏より説明され、日射反射率の測定方法、測定結果の報告方法、標準的な検査方法、耐久性の試験方法などについて議論された。愛知万博会場に施工された歩行者用の保水性ブロック舗装の概要が並木委員より紹介され貯留した雨水と太陽光発電を利用した自動給水システムなどについて議論された。  委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 各委員が取組んでいる活動内容が WG で報告され、研究の現状について共通の認識を持ったことと、高反射塗料の JIS 化に向けた取り組みについて検討を行ったことが成果であり、環境性能の確認まではある程度至ったが、性能評価のまとめあるいはアカデミックスタンダード化に関しては次年度以降の課題として残っている。 本年度の活動成果に基づき 2005 年 5 月に米国ローレンスバークレー研究所よりアクバリ博士を招聘し、クールルーフ、クールペーパメントに関するシンポジウムを開催する予定である。
その他評価すべき事項	建築雑誌活動レポート(2004 年 8 月号)に第 6 回都市気候対策小委員会公開勉強会「ヒートアイランド対策外皮技術の動向クールルーフを事例として」を報告した。